

聖使徒行実の読み（5：12～20）

謹みて聴くべし

^か 彼の日、^よ 使徒の手に由りて、^{きゆうちよう きせき おこな} 民間に、多くの休徴と奇蹟とは行はれたり。衆、
^{みな} 皆、^{いつ} 心を一にして、^{ろう あ よ} ソロモンの廊に在り。餘の者は、^{あえ} 敢て彼等に附かざりき。然れど
^{たみ} も、民は、^{あが} 彼等を崇めたり。^{なんによ} 男女の信ずる者、^{ますます} 増多く主に就き、^つ 人、^{びようしゃ} 病者を衢
^か に昇き出して、^{いだ} 床、^{ゆか} 及び榻に置き、^{とこ} ペトルの過ぎて、^{そのかげ} 其影の或は^{あるい} 之を^{これ} 蔭はんこと
^{こいねが} を糞^{いた} ふに至れり。又、衆^{また} くの人は、^{おお} 近傍の^{きんぼう} 諸^{しよゆう} 邑より、^や 病める者、及び^{おき} 汚鬼^{うれ} を患ふ
^{たずさ} る者を攜へて、^{あつま} イエルサリムに集れり。皆、^{みな} 愈ゆるを得たり。

^{およ} 司祭長、及び凡そ彼と偕にする者、^{とも} サッドウケイの^{いたん} 異端の徒は、^{ともがら} 起ちて、^た 嫉
^み に満てられ、^{その} 其手を^お 使徒に措きて、^{これ} 之を^{ひとや} 公獄に^{くだ} 下せり。然れども、^{しか} 主の^{よる} 使い、夜、

^{ひとや} 獄の門を^{ひら} 啓き、^{いだ} 彼等を^い 引き出して曰へり、

『^ゆ 往きて、^{でん} 殿に立ち、^こ 此の^{せいめい} 生命の^{ことば} 言を^{ことごと} 悉く^{たみ} 民に^{かた} 語れ』。